

星つむぎの村本の森だより No.22

星つむぎの村は、「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せを作ろう」をミッションにプラネタリウム、星空観望会、星や宇宙に関するワークショップなどを展開している団体です。

★ぼく・わたしの絵本

「もりのなか」 マリー・ホル・エッツ:文・絵 まさきりこ:訳 福音館書店



紙の帽子を被りラッパを持って森へさんぽにでかけた男の子はさまざまな動物に出会います。モノクロの絵ですが想像が膨らみ、賑やかで楽しい時間を男の子と一緒にたっぷり楽しめる絵本です。

「ふしぎなかさやさん」 たなか鮎子:作 講談社



いろんな雨模様のカラフルな景色を見せてくれるふしぎな傘たちは、傘職人のおじさんがまちからまちへと旅する中で集めてきた雨粒でできていた。イラストがとっても魅力的な雨が楽しみになる一冊。

★ティーンエイジの君へ

「そのことばが降ってくる 保健室の俳句会」

高柳克弘:作 あやのあゆ:絵 ポプラ社



中学に入り顔のホクロをからかわれて教室に行けなくなってしまったソラ。保健室で同級生ハセオの勧めで俳句と出会います。自分の心を解き放つ17文字を表現していくうちにソラの気持ちにも変化が。

「宇宙の話をしよう」 小野雅裕:著 SBクリエイティブ



人類はどのようにして月にまで行けるようになったのか。宇宙への純粋な憧れだけでなく、国家の威信を掛けた競争も重要な要因だったのです。NASAで働く父が娘と語る、分かりやすい宇宙探査の物語。

★トピックス...

7月といえば七夕。1年のうちでもっとも星が気になる日かもしれません。七夕の風習は、古くは中国から伝わってきたと言われますが、たんざくは日本で広く伝わるようになりまし。旧暦と呼ばれる、日本が江戸時代まで使っていたカレンダーを適用すると、今年は、8月10日が「旧暦七夕の日」。この日は、上弦の月(半月)がまるで、天の川を渡る船のようにも見えます。七夕月間とも言える夏、みなさんの願いが星に届きますように。

次号の発行は10月1日です。

星つむぎの村の活動はホームページやYouTubeでもご覧いただけます。

・星つむぎの村HP・<https://hoshitsumugi.org/>

★パパ・ママの本

「センス・オブ・ワンダー」

レイナルド・カワツ:著 森田真生:著 西村ツチカ:絵 筑摩書房



この星に生まれたすべての命が、「きてよかったね」と思える世界をつくりたい。京都の自然の中で豊かに生きる独立研究者が、願いを込めて名著を書き継ぎます。美しい文章に心打たれる一冊です。

「君が夏を走らせる」 瀬尾まいこ:著 新潮文庫



名うての悪ガキに1か月間2歳前の娘を託す先輩。金髪16歳が食事を作り、ママごとをし公園に行きオムツを換える。肩車で伝わった体温が「ばんぱってー」と、まだ終わらない夏の扉を開きます。

★みんな・みんな生きている！

「よるになると」 松岡達英:作 福音館書店



昼間の公園、草原、水辺、森のなか、次の頁にはひんやりとした夜の様子が描かれて、生き物たちが命をつなぐため行動します。ダンゴムシが枯葉を、カマキリがバッタを食べる音が聞こえてきます。

「ひだまりの歌」 いうちちひろ:作 風詠社



「自然の不思議、美しさ」「障害をもって生きることの豊かさ」を伝えたい、作者のそんな思いが詰まった色鉛筆画集。四コママンガは車いすユーザー視点満載。生命力溢れる文章も読み応えがあります。



YouTube
QRコード

星つむぎの村の様々な活動
フライングプラネタリウムや
コンサートなど、
YouTube配信も
ご覧ください。



編集・発行

一般社団法人 星つむぎの村

〒409-1502

山梨県北杜市大泉町谷戸6587-2

☎0551-88-9027

✉ book@hoshitsumugi.org

HP <https://hoshitsumugi.org/>